

はしがき

2020年度、新型コロナウイルスの感染症が世界を襲いました。社会の各分野は甚大な影響を被りましたが、大学もその例外ではありません。感染の拡大を防止するため、対人接触を減らすことが強く求められ、研究・教育の活動が大きく制約されました。当センターでも、当初予定していた活動の大幅な見直しを迫られました。毎年行って来た市民向けの公開講座や、各種の研究会や講演会、学校向けの出張授業や大学訪問などの多くを、縮小ないし中止せざるを得ませんでした。

もっとも、このような時期であるからこそ、社会では重要な政策課題が多数持ち上がり、研究が果たすべき役割も増大しました。日本社会で論争になったトピックの一つは、コロナの感染対策をめぐり、未知のリスクに直面し、長期にわたって国民が犠牲を強いられる中で、政策の妥当性が広く論じられたことは、自然なことでした。もうひとつの重大なトピックは、アメリカの大統領選挙です。この選挙は、アメリカの民主主義や外交政策の行方を決めるものとして、世界的な関心を集め、活発な議論を喚起しました。当センターは、この二つのテーマについて、合計4回の公開講演会を、Webセミナーの形式で行うことができました。多数の皆様のご協力、ご参加をいただき、意義深い企画になったと考えております。

今後も当センターの活動に、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年3月 高等法政教育研究センター長 辻 康夫